

ブルーベリーの育て方

分類：ツツジ科スノキ属 半落葉性低木
学名：Vaccinium spp.
原産地：北アメリカ
適地：北海道以南の日あたり、排水のよい酸性土
受粉用の樹：必要

ブルーベリーの魅力

木があまり高くないので、庭植えでも鉢植えでも場所をとりませんし、特に注意を要する病虫害がないので無農薬栽培も可能で、育てやすい果樹です。果実は傷みやすいので、なまで出回することは少ないですが、家にあればもぎたての果実を楽しめます。しかも、果実に含まれるアントシアニンという色素に目の疲れをとる効果があり、その他ポリフェノール類には成人病の予防効果もあります。

また、果実だけでなく、花の時期には白か薄紅色のドウダンツツジに似たかわいい花を觀賞でき、秋には鮮やかな紅葉が楽しめます。自宅でブルーベリーを楽しんで見ませんか？

育て方のポイント

酸性の土を好む

酸性土壌で生育がよくなる性質があります。そのため、庭植えにするときには、植え穴をなるべく大きく掘って、土壌が酸性になるように土壌改良を行うことが必要です。(中性・アルカリ性では生育不良となり最悪の場合には枯れます。)また、鉢植えでは、使う用土が酸性になるように鹿沼土とピートモスを等量混ぜ、土壌を酸性にしてから植えつけます。ただし、ピートモス(寒い地方の苔が堆積した物で酸性の有機物です。ただし市販のピートモスの中には酸性度(pH)を調整して中性にした物がありますが、これは使えません。)は、酸度未調整の物を使用してください。また、混ぜる時に、ピートモスに水を充分に含ませてください。

高植えにし、根元にマルチング

ツツジ科特有の細根性なので、排水の良い場所が適します。庭に植える場合は日当たりの良い場所を選び、土を高く盛り上げて、その上に苗を置くように植えるとよいです。しかし、高植えすると乾燥しすぎることもあるので、完熟堆肥、腐葉土、ピートモスなどを根元に厚めに敷きます。

受粉樹と一緒に植える

ブルーベリーの仲間は自家受粉しにくいので、1本では花は咲いても実つきが悪いです。植えつけるときには、同じ系統のものの中から2品種以上を選んで、並べて植えてください。実つきも良くなり、果実も大きくなります。

人工授粉：都会の住宅地で、ハナバチなどの訪花が難しいと思われるときは、人工授粉をします。先の細い綿棒や筆を使い、開花して2日ほどたった花を軽くたたいて綿棒の上に花粉を散らした後、必ず別の品種の花の雌しべにつけます。開花期間中、4~5日おきに4~5回ほど繰り返すと効果的です。

病虫害：特に注意すべき病虫害はありません。時として、病気や害虫を見つけたら早めに取り除きます。土のpHが高くアルカリ土壌であったり、粘土質土壌の場合に生理障害(葉の黄化やクロロシス)が発生することがありますが、上記のような、ピートモスなどによる土壌改良や、有機物をマルチングするなどします。

防鳥ネット：果実の成熟が始まったら、空からの鳥害を避けるため、網目が10~20mm目の防鳥網などを張ります。

水やり：根が浅く広がっており、他の果樹よりも水を好む性質があるので、乾きやすい鉢植えでは特に春と夏の乾燥期には毎日水やりが必要です。その他の時期には、鉢植えでも地植えでも表面が乾いたらたっぷりと水を与えます。

施肥：植えつけてから2年~3年目ぐらいまでの幼木で根量が少ない場合には、肥料やけを起こすことがありますので、緩効性肥料を使い、果実が安定してなり始めた成木になってから硫酸や尿素などの速効性の肥料を施すようにしましょう。年に3回ほど、元肥と追肥を施します。(栽培カレンダー参照)

剪定：2~3月に植え付け2~3年目の幼木のときは木が弱らないように花芽のついた先端部分を切り、3年目からは太くてよく伸びている強い結果枝(花芽のついた枝)を残して、細い枝を間引きします。5年目以降の成木期は古くなって成長の鈍ってきた主軸枝を切り戻して、枝の若返りを図ります。

6月中・下旬ごろ徒長枝を2/3に摘心し、枝分かれを促します。

ふやし方：さし木(12月~3月上・中旬の休眠期間中に休眠枝ざし、6月下旬~7月上旬に緑枝ざし)

<ブルーベリーの主要な系統>

(北部)ハイブッシュ系：樹高は1~2m、寒冷地向きで、強酸性(pH4.3~5)を好みます。品種は デキシーダロウ ウェイマウス などです。

サザンハイブッシュ(南部ハイブッシュ)系：1970年代に暖かい地域向けに品種改良された種類で、冬に暖かい地域でも休眠から覚めやすい性質。酸性土壌を好み、寒冷地では枝の凍害が発生しやすつくれません。品種は、シャープブルー ヒトミ オニール などです。

ラビットアイ系：樹高は1~3m、果実が熟する前にウサギの目のように赤くなるのでこう呼ばれています。温暖地向きで、酸性pH5~6くらいが適しますが、適応範囲が広いです。品種は ホームベル ウッタード ティフブルー などです。

<接木ブルーベリー>

土壌への適応性が高く、どのような土でも比較的良好に生育するラビットアイ系にハイブッシュ系をつくと、ハイブッシュを植えたときよりもよく生育し、大きな果実を収穫することができます。関西でもハイブッシュが育てやすくなりました。あいあいパークでは、接木のまち山本ならではの接木ブルーベリーも扱っております。

